

# 「つくる・見る・話す」ことと「考える」ことを連続発展的に行う図画工作科における学習指導

濱 崎 昇 平 [鹿児島大学教育学部附属小学校]・奥 俊 明 [鹿児島大学教育学部附属小学校]  
中 原 大 士 [鹿児島大学教育学部附属小学校]・小 江 和 樹 [鹿児島大学教育学部附属小学校]

## Study of teaching Arts and Crafts in school: The collaboration of “making, looking, speaking” and “thinking”

HAMASAKI Shohei・OKU Toshiaki・NAKAHARA Daishi・OE Kazuki

キーワード：図画工作科教育、つくる・見る・話す・考える、イメージ、豊かな表現

### 1 研究の背景

私たちが生きる現代の社会においては、自他の感情や思いを表現・受容できない、意欲や自信が欠如している、自制心が低下している、いじめの増加等様々な子どもに関する問題がある。これらの問題を引き起こす原因を考えると、子ども一人一人が自分の思いや考えを素直に表現し合ったり、他者の考えに共感したりする機会が少ないことが原因だと考える。この問題を解決するためには、子どもが、自分や他者、社会、対象と向き合いながら表現したり、共感したりして自分なりの解決の方法を見出す経験が必要である。このような経験を繰り返すことで、「自分はできるんだ。」「自分はいろいろなつながりの中で生きていくんだ。」「自分は無二の存在なんだ。」といった思いをもつことにつながる。その過程は、図画工作科においては、自分でついたり、他者の表現を見たり、互いの表現を基に話したりしながら、自分の表現の具体的な見通しをもち、豊かな表現を行う過程と同じであり、図画工作科が目指す豊かな情操を養うことにつながると考える。

### 2 研究の方向

上記のような背景を踏まえ、本研究では、「つくる・見る・話す」と「考える」ことが連続発展的に行われる題材・内容の設定、指導方法の改善を行う。そして、「つくる・見る・話す」と「考える」ことを連続発展的に行いながら自分なりの解決方法を見出し、自分の思いを豊かに表現する子どもの姿の具現化を目指すこ

ととした。

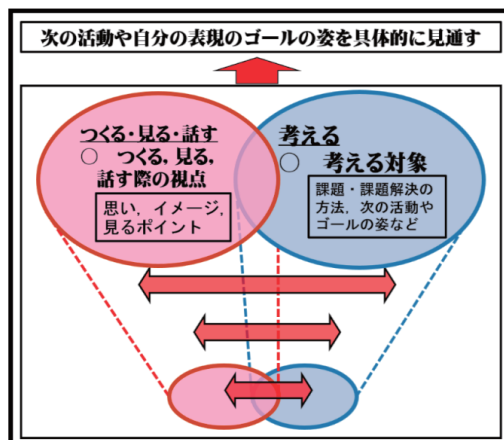
### 3 「つくる・見る・話す」ことと「考える」ことを連続発展的に行いながら解決方法を見出す学習指導

#### (1) 「つくる・見る・話す」ことと「考える」ことを連続発展的に行う学習指導とは

子どもは表現や鑑賞を通して、自分の思いを表現するための課題に気づき、「アイデアスケッチをイメージと合うように見直そう。」と考えたり、材料や作品を見ることで「あの材料の形や色は自分のイメージした作品に生かせそうだな。」と考えたりすることができる。さらに、友達と作品について話すことで、「友達のアドバイスを生かすことでイメージがもっとはつきりする。」と考えたりする。このように、ついたり、見たり、話したりすることと、考えることは常に繰り返されている。子どもたちは、自分の表現の課題に気付いたり、課題を解決したりし、次の活動や自分の表現のゴールの姿を具体的に見通すことができ、自分の思いを豊かに表現するようになる（図1）。

#### (3) 「つくる・見る・話す」ことと「考える」ことを連続発展的に行う題材・内容の設定

実態に応じた魅力的なテーマは、子どもの発達の段階に合わせ、どのようなことに興味があるか、どのような経験をこれまでしてきたかを踏まえて設定することで、「やってみよう。」「この材料ならこんなことができそうだな。」という題材・内容への意欲につながる。題材のねらいに合った表現をすることに意欲的になった



【図1 「つくる・見る・話す」と「考える」ことを連続発展的に進めながら解決方法を見出す過程のイメージ図】

子どもは、自分の思いやこれまでの経験などを基に、新しいイメージをつくり続け、さらに、他者の表現の鑑賞にも意欲的になり、自分のイメージをさらに発展させることが期待される。

多様な発想ができる活動は、子ども一人ひとりが主体的に自分なりの発想をしなくなるような活動を設定することで、「工夫するとできそ

うだな。」「考えたことを話してみたいな。」といった意欲的な姿が表れることが考えられる。つくる・見る・話すといった活動に意欲的になった子どもは、自分の表現したいものに合わせて、試行錯誤しながら新しいイメージをつくり続けたり、他者とのやりとりを通して自分のイメージを発展させたりすることが期待される。

意外性・新鮮さがある材料・用具、場所は、材料を見たり、加工したりする中で見つけた新たな発見や課題を基に、「この部分はここに生かせそうだな。」「どうすればつくれるかな。」「もっとよく見てみたいな。」と、意欲をもちながら表現に取り組める材料・用具、場所である。材料・用具、場所に対して意欲的になった子どもは、見つけたそれらのよさを基に、自分のイメージをつくり続け、材料・用具、場所の生かし方に対する課題を他者と交流しながら解決することで、自分のイメージをさらに発展させることが期待される。

これらの要素を、絵・立体・工作と造形遊びの学習それぞれで整理することで、内容の特性に応じたものになると考える。(表1)

【表1 題材・内容の設定要素】

要素	絵・立体・工作	造形遊び
① 実態に応じた魅力的なテーマ	・ 子どもが興味をもっていることを基にテーマを設定	・ 造形行為や造形環境を基にテーマを設定
② 多様な発想ができる活動	・ 表現したいことを基に、試しに材料や用具を使ったり、イメージマップをつくりたりして、新たなイメージをもつことができる活動を設定	・ 体全体を使って感覚を働かせながら、材料・用具、場所の可能性を見付け、新たなイメージをもつことができる活動を設定
③ 意外性・新鮮さがある材料・用具、場所	・ 目的やテーマに沿って材料・用具、場所を設定	・ 材料そのもの、もしくは、材料を基にした造形行為から表現の可能性を見出せる材料・用具、場所を設定

### (3) 「つくる・見る・話す」と「考える」

ことを連続発展的に進める指導方法

#### 場の設定の方法

子どもの発想面や技能面のつまずきを、過去の経験やこれまでの実践の課題等から想定して、「つくる・見る・話す」と「考える」ことを連続発展的に進める場を設定する。また、子ども自身がその場の必要性を感じる状態を見極めて場の設定をすることでさらに効果があると考えられる。

#### 「教材や教具の提示の仕方」

4つの力を発揮しながら比較・関係付けを行い、イメージをつくりださせることができる教材・教具の提示の仕方のことである。イメージや見るポイントを比較・関係付けることに気付くことができる参考作品や、工夫の余地がある参考作品、子ども自身が表現の手順を見出せる参考作品、多様な発想が生まれるタイトルバックなどがある。提示をするときには、比較や関係付けをしやすくように配慮することで、より

対象に気付かせることができると考える。

# 「比較・関係付けをする対象に気付かせる発問や板書」

4つの力を発揮しながら比較・関係付けを行い、教師が意図する対象により気付かせ、イメージをつくりださせることができる発問や板書のことである。現段階のアイデアスケッチに、登場人物、場所、何をしているかという様子等を詳しく問う発問、見通すことができた過程を振り返り価値付ける発問、複数の技能面の長所や

短所などを一目でわかるようにイラストを交えながらまとめる板書などがある。これらの働きかけをする際に、比較・関係付けをする観点を明確にした上で行うことで、子どもはより比較・関係付けをしながら思考することができると考える。

これらの指導方法の要素も、絵・立体・工作と造形遊びの学習それぞれで整理することで、内容の特性に応じたものになると考える（表2）。

【表2 指導方法の要素】

指導方法	絵・立体・工作	造形遊び
① 場の設定方法	・ 試しづくりや鑑賞活動を設定	・ 場の工夫を考えたり、鑑賞をしたりする活動を設定
② 教材や教具の提示の仕方	・ 多様な参考作品等の掲示	・ 新たな造形行為や場所等の掲示
③ 比較・関係付けの対象に気付かせる発問や板書	・ 参考作品や子どもの作品、アイデアスケッチ等を基にした、発問や板書の工夫	・ 造形行為や材料・用具、場所等を基にした、発問や板書の工夫

## 6 絵・立体、工作題材における実践

実践題材の概要は次のとおりである。

### (1) 題材の目標

自分の夢の世界を、光を用いて切り絵に表すことに興味をもち、枠の形や中心と周りのものを発想しながら、カラーセロハンの効果、切り絵の強度、紙の加工などを工夫して、夢の世界の切り絵を製作することができる。

### (2) 題材の特性及びこれまでの実践上の課題

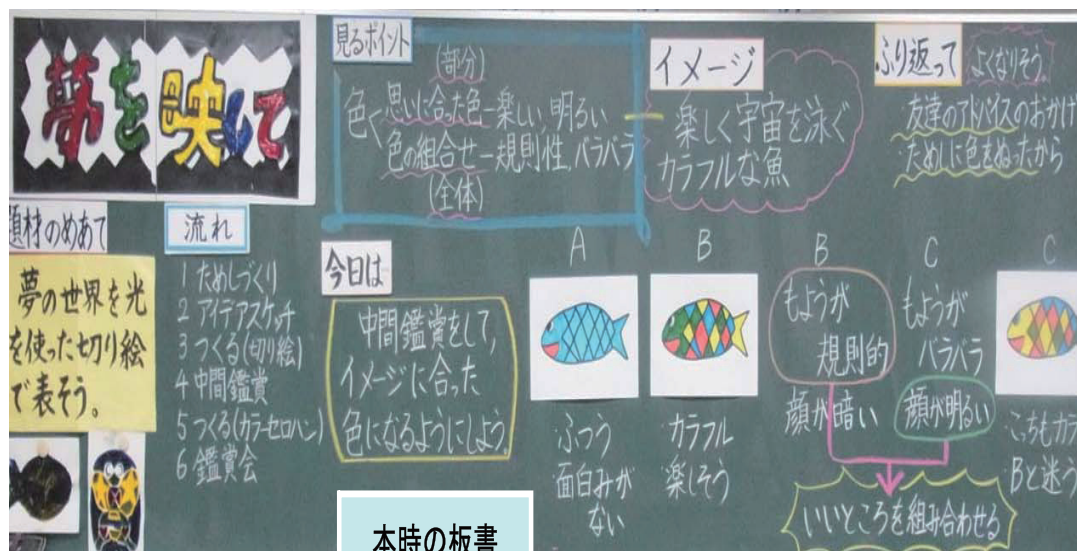
切り絵を終えた段階で満足してしまい、力

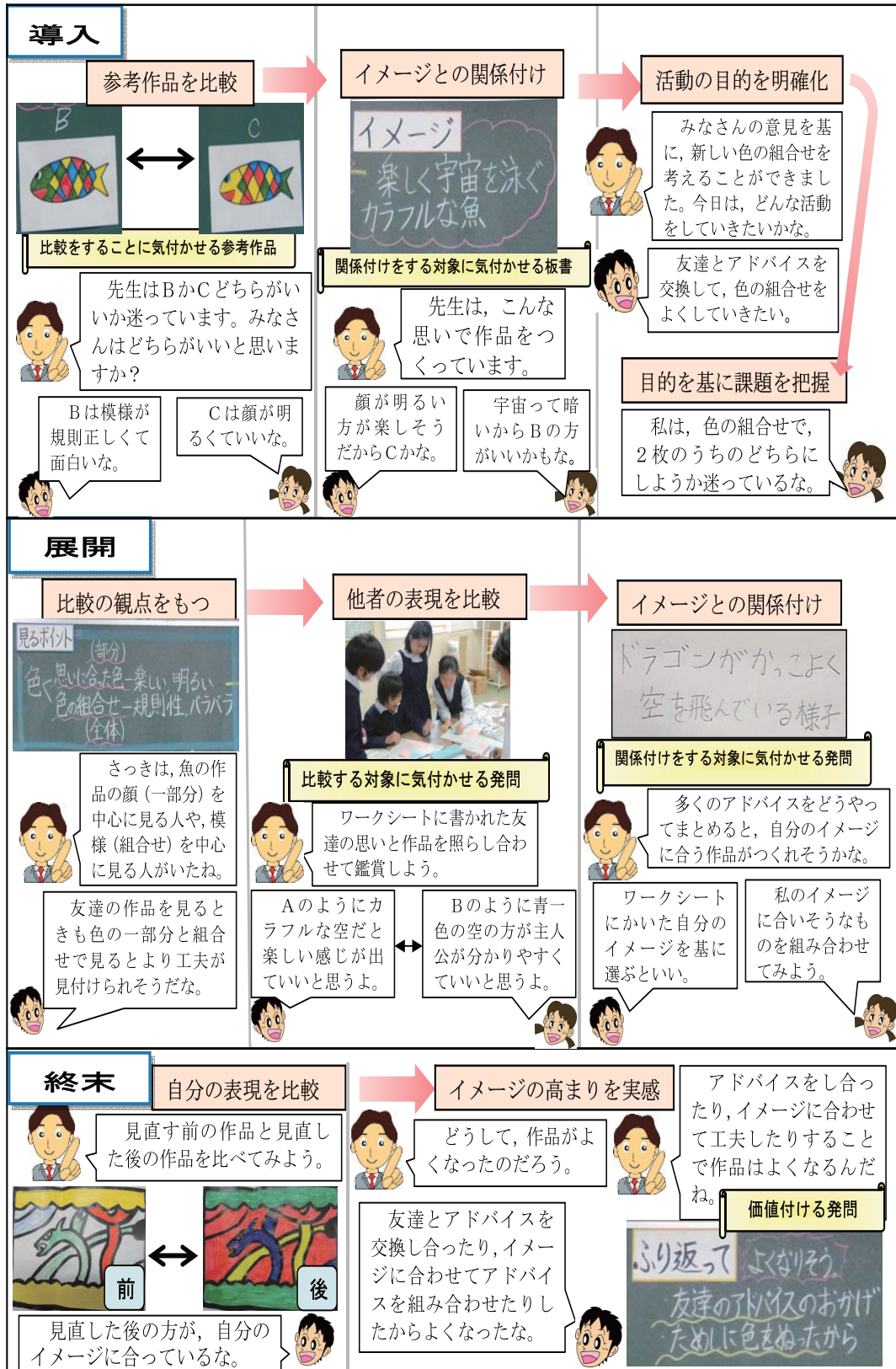
ラーセロハンを使った色の工夫をするところまで思いをこめて表現することができない子どもがいる。色の工夫の段階で、イメージとの関係付けを行う必要がある。

### (3) 実際

#### 本時の目標

夢の世界を表現することに興味をもち、色の組合せや思いに合った色を考えながら作品を鑑賞し合う活動を通して、自分の思いに合わせて表現することができる。







【表3 造型遊びで想定される志向の型と子どもの姿】

型	子どもの姿
行為志向型	作品の製作を主目的とはせず、つくる過程そのものを楽しもうとする。
作品志向型	見立てたものにしがたって計画的に作品を完成させる。
中間型	行為志向型と作品志向型が混在する。

【表4 型による価値付けの観点】

行為志向型	行為自体を楽しんでいる姿が見られるので、形や色を工夫している行為そのものを価値付け、次の行為への見通しをもたせる。
作品志向型	自分のつくりたいものを基に、形や色を工夫しているので、子どものイメージしているものを価値付け、次の表現の見通しを具体的にもたせる。
中間型	行為志向型と作品志向型を行き来しているので、形や色そのものを考えさせたり、形や色から見立てさせたりすることで、行為や作品の造形そのものを楽しんで行き来しなくなるような見通しをもたせる。

#### (4) 考察

「つくる・見る・話す」と「考える」ことを連続発展的に行いながら解決方法を見出す題材・内容の設定要素を基に設定した活動や、思いやイメージと色の工夫を関係付ける参考作品や発問は、自他の作品を比較して見付けた色の工夫を、自分の思いに合わせて取捨選択しながら、新たな色のイメージをつくりだす子どもの表出につながった。

### 6 造形遊び題材における実践

子どもの表現の様子を基に発問などを工夫することは、子どもの発想を広げることにつながり、効果的である。そこで、造形遊びにおける子どもの活動の様子を整理分析し、想定される子どもの姿を以下の表3のように整理した。  
※志向とは、「意識が一定の対象に向かうこと」ととらえている。

これらの型に応じた価値付けを行うことで、材料・用具、場所の見方や考え方を個に応じて深めることができると考える。そこで型ごとの価値付けの観点を上記の表4のように整理した。

#### 実践題材「つないでつないで 大はっけん！」(第2学年)

##### (1) 題材の目標

遊具にポリエチレンテープをつなぐ活動に興味をもち、体全体を使って取り組むことを通して、適切に結んだりのはさみを使ったりしながら、つなぎ方を工夫したり、組み合わせでできた形や色の特徴に気付いたりし、ポリエチレンテープの特徴を生かした形や色を工夫する見方や考え方を深める。

##### (2) 子どもの実態及び題材の特性

これまで、子どもたちは紙や粘土などの材料を生かして表現を行ってきた。その際、自分のイメージを基に形や色などを工夫してきたが、材料を生かした形や色の工夫の仕方が単調であったり、どのような材料を使おうか分からなかったりする子どもの姿が見られた。また、発達の段階として場所へのかかわりへの興味が高まりつつある。体全体を使いながら、遊具に働きかけることができるため、自分から進んでポリエチレンテープをつないで形や色の特徴に気づき、表現に対する意欲を高めることができる。

## (3) 学習指導のポイント

【表5 学習指導のポイント】

要素	学習内容の設定要素
実態に応じた魅力的なテーマ	「遊具をポリエチレンテープで、さらに楽しい場所にしよう。」というテーマを設定する。
多様な発想ができる活動	ポリエチレンテープのつなぎ方を工夫しながら、組合せを考え、できた形や色を基に、新しい形や色を考えることを繰り返し行うことができるような活動を設定する。
意外性・新鮮さがある材料・用具、場所	ポリエチレンテープは、巻きつける、結ぶ、束ねる、垂らす、伸ばすなど様々な造形行為が容易にできる。また、色が数種類ある上に、透過性があるので、自分の好きな色や組み合わせたい色などに合わせて色を選択しながら表現したり、色の重なりから新しい色を発見したりすることができる。 造形環境として、場所を遊具とし、つなげる、巻きつけるなどの様々な造形行為ができるようにする。

要素	具体的手だて
場の設定方法	活動中に、ポリエチレンテープのつなぎ方や、色の生かし方などが単調になっている状況が見られたときは、様々な造形行為ができるような場や、友だちの造形行為を鑑賞する場の設定を行う。
教材や教具の提示の仕方	実際に教師がポリエチレンテープをつなぐ造形行為を見せ、テープを遊具につなぐと、形や色の特徴を生かした楽しい表現ができることに気付かせ、活動の見通しをもたせる。
比較・関係付ける対象に気付かせる発問や板書	つないでできた形や色を比較できる発問や板書を行う。 友だちのつなぎ方を生かしている子どもや、形や色を工夫している子どもを紹介する。

想定する子どもの姿		
		
<b>行為志向型</b> 「何本もあるテープに1本のテープをつないでひっぱったら面白そうだからやってみよう。」と、行為自体を楽しんでいる姿	<b>中間型</b> 柱につなげた形が部屋に見えてきたので、部屋をつくらうとする姿 部屋をつくらっているうちに、柱に巻きつける行為自体が楽しくなり、巻きつける行為を主目的として活動する姿	<b>作品志向型</b> 「家の屋根をつくらう。赤色が好きだから赤い屋根にしよう。」と、自分のイメージを基に形や色で表現しようとする姿

#### (4) 本時の実際



#### (5) 考察

造形遊びにおける「つくる・見る・話す」と「考える」ことを連続発展的に行いながら

解決方法を見出す題材・内容の設定要素を基に設定した活動や、思考を促す発問や価値付け、鑑賞の場の設定により、ポリエチレ

ンテープの特徴を生かして形や色を工夫する  
見方や考え方を深めることができた。

作科編』(日本文教出版 平成 20 年)

○ 若元澄男 編集「図画工作・美術科 重要用語  
300 の基礎知識」(明治図書 平成 18 年)

## 7 研究のまとめ

### (1) 研究の成果

- ・ 活動の目的をもち、表現の見通しをより具体的にもち、豊かな表現を行う子どもの姿が見られた。
- ・ 気付いた材料・用具、場所の特徴を基に、新しい形や色を繰り返し発想しながらイメージをつくりだそうとする姿が見られた。

### (2) 成果の要因

- ・ 「つくる・見る・話す」ことと「考える」ことを連続発展的に行いながら解決方法を見出す題材・内容の設定要素を絵や立体、工作と造形遊びの二つの視点で整理したことで、各内容においてより具体的に題材・内容の設定を行うことができたことが要因だと考える。
- ・ 「つくる・見る・話す」ことと「考える」ことを連続発展的に行いながら解決方法を見出させる教師の具体的な働きかけを絵や立体、工作と造形遊びの二つの視点で整理したことや、造形遊びにおいて、想定される志向の型と子どもの姿を見出したことで、発問や価値付け等の教師の具体的な働きかけが、子どもの考えに沿ったものになったことが考えられる。

## 付記

本報告は、鹿児島大学教育学部附属小学校平成 25 ～ 27 年度研究紀要で発表した研究内容等に基づき、図下工作科教育において研究をさらに発展させ、その研究成果をまとめたものである。

## 〔参考文献〕

- 阿部 宏行 編著「いっしょに考えよう図工の ABC」(日本文教出版 平成 24 年)
- 宮脇 理 監修「新版美術教育の基礎知識」(建帛社 平成 9 年)
- 文部科学省「小学校学習指導要領解説図画工